

授業科目名	新 生 児 学 <i>Neonatology</i>			担当教員	吉永 宗義
開講年次	1 年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	<p>新生児の分類とその評価を行う知識を深めるとともに、子宮内環境から子宮外環境への臓器別の生理的適応変化とそれをもとにしたフィジカルアセスメントを習得する。また、出生時の適応障害、在胎週数別に見た合併症とその症状を理解し、新生児の治療方法として、基本的治療（ケアや栄養管理）、薬物治療（薬剤投与の実際など）、特殊な治療（人工換気、交換輸血、脳低温療法など）について最近の知見も含めて学び、ケアの提供ができるようになる。</p>				
到達目標	<p>1. 新生児の病態生理と疾病の特徴を理解し、新生児に特有の看護が提供できるようにする 2. 新生児蘇生の基本的手技を習得する</p>				
授業計画	<p>1 回 新生児の分類、ハイリスク新生児の評価：産科との連携 2 回 新生児診断学（フィジカルアセスメント）：理学的所見のとり方、主要徴候の見方、成熟度の評価、神経学的発達 3 回 水電解質代謝の発達と異常：腎血流量・濾過率の推移、生理的体重減少、電解質のコントロールと代謝、電解質異常（Na, K, Ca）・低血糖の症状と治療 4 回 先天性代謝異常症とスクリーニング 5 回 新生児の呼吸・循環の適応：肺水の吸収、胎児循環から成人循環への適応と胎児循環遺残症 6 回 呼吸器疾患：新生児一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群、胎便吸引症候群の予防と治療、air leak、人工換気の方法（CPAP, PEEP, IMV, HF0 など）・一酸化窒素療法 7 回 チアノーゼ性心疾患の分類と症状発現時期 8 回 消化吸収のための酵素とホルモンの発達、母乳育児 9 回 壊死性腸炎、先天性消化器（外科）疾患 10 回 ビリルビン代謝と生理的黄疸、病的黄疸のメカニズムと原因 11 回 高ビリルビン血症の検査と治療：光線療法と交換輸血 12 回 貧血と多血、凝固系の特徴と疾患 13 回 新生児仮死の要因と予防対策、合併症、治療：脳低温療法 14 回 虚血性低酸素性脳障害、頭蓋内出血 15 回 細菌感染症（起炎菌や疾患の特徴）の特徴と治療、子宮内感染症（先天性ウイルス性感染症）の分類と症状</p> <p>★ 助産基礎実習前に新生児蘇生の手技を習熟する（学内での周産期新生児医学会の新生児蘇生講習会の受講）：蘇生のアルゴリズムの理解、蘇生バック使用の習熟が目標</p>				
学習方法	講義と演習				
オフィスアワー	教員が学内にいる場合は、月曜日～金曜日のいつでも対応する（特に制限を設けない）				
テキスト	<p>仁志田博司：新生児学入門（第4版）．東京，医学書院，2012． 細野茂春：新生児蘇生法テキスト（改訂第3版）．東京，メジカルビュー，2016．</p>				
参考文献	MacDonald, et al.: Avery's Neonatology (7 <sup>th</sup> ed) .Wolters Kluwer ,2015.				
評価方法	筆記試験（100%）で評価する。				